



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 第39号
令和6年1月10日
「人権フォーラム還流報告」

【令和5年度「三重郡子ども人権フォーラム21」に参加した4名のみなさんからの還流報告】 (11月28日(火)人権フォーラムに参加した2年生1組の駒田莉子さんの感想から一部抜粋して)

私は人見知りで緊張して言えないのではないかと考えていた。司会をしてくれた先生たちが場を和ませてくれたり…。話を振ってくれたことで1つの話題に積極的に話すことができた。実際、人の意見をみんなが真剣に聴きあっていたからこそ、みんなが意見を出し合って話し合えるようになったと思います。とても話しやすかったし、自分の意見に自信が持てました。いま、自分が悩んでいることは自分だけがそう思っていると思って、伝えるときはとても緊張しました。でも話してみると、他の人たちも同じ思いを持っていると知って勇気づけられました。とても勉強になったし、共感できる意見もたくさんあり、人権フォーラムに参加してよかった。



12月22日(金)の第2学期終業式前、オンラインにて技術室と各教室をつなぎ、「三重郡子ども人権フォーラム21」に参加しての還流報告を行いました。この取り組みは、三重郡内の川越中学校・朝日中学校・菰野中学校・八風中学校に通う子どもたちが出会い、様々な人権課題について、テーマを決めて話し合う、そして共有し合う「語りの場」です。8人のグループに分かれて語り合います。川越中学校からは毎年2年生を対象としてフォーラムに参加をしています。今年度は2年生から4名の参加者で菰野町庁舎にて実施しました。Aグループは「LGBTQ」「日常の学校で関わりや発言について」を中心に、Bグループは「いじり・いじめ」「本当の仲間とは」について意見を出し合い、話し合いが行われました。話し合いは、はじめは先生が進行をしながら。しかし時間の経過とともに参加した生徒たちの意見で話しが進められていきます。川越中学校からの4名は、一緒にグループの人たちの話にしっかりと耳を傾け、話に共感し、自分のことも語りながら意見交流をしていきました。参加した4名の2年生のみなさんに、「どんな話をしたのか、どのようなことを学んだのか」を自分の言葉でわかりやすく発表してくれました。自分の言葉でしっかりと想いを伝えてくれた4名のみなさん。本当にありがとうございます。各クラスでしっかりと発表を聴いてくれた全校のみなさん、本当にありがとうございます。そして、今回のフォーラムの実行委員で話し合いの中心としてコーディネートしていただいた山本先生も本当にありがとうございます。

【人権フォーラムの4つの目的(4つの場の設定)】

- ① 中学校の枠を超えた出会いの場(差別を解消していこうとする場)。
- ② 1つの切り口を通して様々な人権問題について真剣に考える場。学ぶ場。
- ③ 単なる意見発表でなく、討議する場(フォーラムとして)。
- ④ フォーラムで学んだことを還元するための場(フィードバックとして)。



2年生から参加をしてくれた4名のみなさんの「人権フォーラム還流報告」の内容から

2年1組 駒田 莉子(こまだ りこ) さん



私は人権フォーラムで、日々の学校での関わりについて議論してきました。私は、「授業内で発言するときに周りの人にどう思われるかを考えてしまって、発言するのが苦手だ」という意見を伝えました。話してみると、私と同じ思いをしている人が想像以上に多くて安心しました。そして、気持ちが楽になったような気がしました。自分の思いを打ち明けることで、より多くの人と関わりが持てるのではないかと思います。

次に議論したことは、一人ひとりが議題を出してそれぞれが思ったことを伝え出し合いました。心の中で思っただけでも言葉に表せなかったり、私が思い浮かばなかったようなことをグループの人が言ってくれてとても勉強になりました。そして、共感できる意見もたくさん得られました。

自分の周りにはいろんな人がいます。人それぞれの考え方、価値観があると思います。なので、『人を理解する』ということを経験して過ごしていこうと思います。

2年2組 森 春馬(もり はるま) さん



今回の人権フォーラムで僕たちが話し合ったことは、「いじり」「いじめ」はなぜなくなる？ということと、本当の仲間になるには？ということでした。まず、「いじり」「いじめ」がなくなる理由として話し合ったのは、相手のことを考えていない、おもしろいから、その場の勢いで言うなどなどが挙げられました。その「いじり」を減らすためには周りが笑わない、本当の仲間になり「お互いを知る」ということが大切なのではないかと話し合いました。

そこで、本当の仲間になるには？という内容に入りました。きれいな順序をふんでいって相手を少しずつ知る。自分から話す。輪を広げることが大切なことだということをお話ししました。その話し合いで印象に残ったのは、「楽しくなる」ということです。本当の仲間になる上で「楽しくなる」は話はずみ、お互いの関わりも更に深まります。「楽しくなる」ということは、お互いの関わりも更に深くなります。「楽しくなる」ということは、お互いの関係が深まっているということもわかり、良い気分になります。そこから別の時間に話すときは、前より関わりが深まっていて話がよりおもしろくなります。

僕は今回の人権フォーラムで「楽しくなる」ということの大切さを改めて気付くことができました。この気付いたことは学校生活の関わりにも大切なことで、話を盛り上げることもできます。なので、僕は「楽しくなる」、「仲間を増やしていくために一歩ずつ深める」ということを大切にして、日々の生活で一歩一歩深めていきたいと思いました。

2年3組 阪口 颯太(さかぐち そうた) さん



私はグループで話し合ったことは「いじり」を無くすことについてです。「いじり」は相手の反応を面白がったり、相手のことを考えずに発言をしてしまい、人を傷つけることがあります。また、第三者が注意できない、見て見ぬふりをしているから「いじり」は無くならないのが現状です。

どのようにしたら「いじり」が無くなるのかを話し合いました。挙げた意見は、周りの人が流されて笑わないこと。悪質な「いじり」を気づかせること。「本当の仲間」として接することなどが意見として挙がりました。

私たちはさらに、「本当の仲間になる」ことについて話し合いました。「本当の仲間になる」には、行事のときだけではなく、日常から団結すること、色々な人に積極的に話すこと、お互いを知ること、人の良いところを見つけて尊敬し合うことなどして、人の輪を広げていくことで「本当の仲間」といえる存在となり、「いじり」がなくなっていくことにつながると考えました。また、人の輪を広げ、関わり、あたたかい感謝の気持ちを伝え合うと、さらに団結していけるというように、私のグループでは挙がりました。